

■学校経営のポイント

物と心を整える

喜名 朝博

傘を丸めて傘立てに入れ、長靴は横にして靴箱へ、カッパを畳んでいる子もいる。雨の日の登校時は、子どもたちもすることが多い。幼児期からしてきていることだが、雨具を上手に始末できるようになることも成長の証だ。昨今、入れる部分が筒状になっている傘立てが増え、丸めなくてもそのまま入れられるようになっている。基本的な生活習慣や生活技能は、人格形成に影響することもあり、傘を丸めるという所作を大事にしていきたい。

割れ窓理論

傘を丸めるのは、次の人が傘を入れやすいように、自分の傘で他者が濡れないようにという配慮である。自分にとってもその方が、始末がいい。そして、その場を美しく保つという重要な意味もある。物を整えることは他者への配慮であり、自分の気持ちを整えることである。乱れた場面を見ると、心も乱れ、自分もそうしてよいのだと判断してしまう。割られた窓ガラスを放置しておく、さらに割られる窓ガラスが増え、街が荒廃していくという「割れ窓理論」は学校にも当てはまるのだ。

それが顕著に見えるのが靴箱だ。靴箱を見ればその学校や学級の様子が分かれると言われる。靴を整えて入れた時に「学校モード」のスイッチが入る。靴の乱れは、そのスイッチが上手く入っていないことの表れかもしれない。登校前に何かあったのか、遅刻しそうで慌てていたのかと推察できるが、それがクラスの靴箱全体に伝播しているようであれば問題は根深い。この状況を放置すれば、危機につながっていく。

朝掃除をする学校

自分たちの学びの場を自分たちで掃除し、美しく保つという清掃活動は、海外からも評価を受ける日本の学校文化のひとつである。かつて勤務した学校では、そんな清掃の時間を、朝の学級指導と1時間

目の間に設定していた。着任当時は慣れなかったが、掃除を終えて1時間目を始める清々しさを感じるようになった。場を整えながら気持ちを整えていく。物を丁寧に扱うことも気持ちを整えることにつながっている。子どもたちにも、掃除の意味をしっかりと伝えていきたい。

担任の朝のルーティーン

出勤したらまず教室に行って窓を開けて机を整え、子どもたちが気持ちよく登校できる準備をする。それが教師としてのルーティーンである。朝に時間がとれないときは前日の放課後に子どもたちの机を整え、簡単な掃除をしておく。登校した子どもたちへのメッセージを板書しておく教員もいる。登校してまず向かう自分の教室が整然としていれば気持ちがいい。今日も頑張ろうという気持ちにさせる。机の位置が乱れていたり、ゴミが落ちていたりする環境に置かれていたり、そのことに慣れ、何の違和感もなくなる。その感覚が人格形成に負の影響を与える。

物や場を整えることは基本的な生活習慣・生活技能である。さらに、その行為によって自分の気持ちも整っていくことを知識として伝えたい。「知識・技能」は、育成すべき資質・能力のひとつであるが、知識と技能はセットで習得されるべきものである。

最後から2番目の子

1年生がプリントを後ろへ送っている。体ごと後ろを向き、「はい」と言いながら丁寧に渡していく。入門期に指導すべき、基本的な所作である。最後尾から2番目の子が最後の子に渡し、自分は立って先生のもとへ行く。「先生、1枚足りませんでした」と自分の分をもらう。ちょっとした所作に、その子の人間性が表れる。

(きな・ともひろ＝国士館大学教授／全国連合小学校長会顧問)

●いじめ重大事態調査委員長経験 44 件の臨床家が出した結論 《7/19 発売、予約受付中！》

いじめ・不登校 「先生、その対応間違ってます！」

保護者をつくる“こどもまんなか”の学校9つの秘訣

嶋崎政男【著】 四六判／定価 2,310 円

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <https://www.kyouiku-kaihatu.co.jp> をご利用ください。

